

# しまのなか

ボランティアセンターでは、ボランティアをしたい方とボランティアを必要としている方をつなげる橋渡しをしています。また活動を支援するため、ボランティアに関する相談や情報提供、講座の開催などを行っています！

本紙とボランティアセンター事業は、皆様からご協力いただいた赤い羽根共同募金を活用しています。

## 地域のためにできること

夏休みを利用して、小・中学生を対象に認知症に対する正しい知識と理解を深める機会として、認知症キッズ・ティーンサポーター養成講座を開催しました。

認知症キッズ・ティーンサポーターとは、認知症の人との接し方を考え、できる範囲での声かけやちょっとした手助けができる応募者のことです。

認知症についての講義やボランティアによる劇（認知症の方への接し方について）を鑑賞したり、脳トレ体操などを行いました。一生懸命メモをとる姿や体操に取り組む姿勢から、皆さんの関心の高さが覗えました。

自分たちが地域のためにできることを考える良いきっかけとなりました。



## サマー チャレンジ

### ボランティアチャレンジ！

ボランティア活動の啓発と新たな担い手の発掘を促進するため、ボランティア団体等から協力を得て、気軽にボランティアや市民活動が体験・チャレンジできる「ボラチャレ」を実施しました。18団体にご協力いただき、延べ36名の方が活動体験をされました！

体験者からは、「このような団体があったとは知らなかった」「貴重な体験となった、引き続き活動をしたい」「体験したことでボランティア活動に強く関心を持った」との感想いただき、実際にこの体験から活動に繋がった方もいます。

今後も地域の皆さんがボランティア体験できる機会を作っていきたいと考えていますので、ぜひご参加ください！



## ボラチャレ

志摩市社会福祉協議会ボランティアセンター

〒517-0501 志摩市阿児町鶴方3098-1サンライフあご2F

☎:0599-55-3885 fax:0599-44-1103

Mail:chiiki@shima-fukushikyo.or.jp

📌 編集・発行





# ボランティア 交流会

## ボランティアの輪・和・話

令和2年から続いた新型コロナの感染拡大が少しづつ落ち着いていき、そして令和5年5月、新型コロナウイルス感染症は5類へ引き下げとなりました。

その間に活動の縮小や中止をした市内のボランティアにもう一度、活動へ意欲的になってほしい、その思いから今年度は講義に「ふくしと教育の実践研究所SOLA」主宰 新崎国広様をお招きし、「ボランティア活動の意義」と題したお話を聞かせていただきました。

「ボランティアは十人十色」「内容や方法はさまざまあるが、自分たちの町を住みやすく良い町にしたいという思いは1つ」「100歳になっても自分のできる事を続けているボランティアがいる」等のお話を伺い、「元気づけられた!」「今後の活動に活かしたい!」との感想が多く聞かれました。

ボランティアの方々の想いを共有する場として、これからも色々工夫しながら開催していけたらと思います。



# 災害 ボランティア センター

## 大切な地域を守る「もしも」の備え

令和6年1月1日、石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する地震が起こり、各地で大きな被害となっています。私たちが暮らす志摩市においても人ごとではなく、南海トラフ地震では甚大な被害が予想されています。

もし被災した場合、志摩市と志摩市社会福祉協議会が協議の上、「志摩市災害ボランティアセンター」を開設します。災害ボランティアセンターでは地域の一日も早い復旧と復興を目指して、各関係機関と連携し、ボランティア活動による支援が円滑かつ効果的に行われるように環境整備を行います。

今年度は「発災後の被災者支援」をテーマに、講師に特定非営利活動法人みえ防災市民会議 議長 山本康史様をお招きして、市民対象と民生委員・児童委員対象の講座を開催しました。また実践に近いかたちでの災害ボランティアセンター設置運営訓練も行いました。

参加者から災害ボランティアセンターの役割・活動に関心はあったが知る機会が少なく、今回の参加を経て理解することができた。また訓練を体験することによって具体的な流れを肌で感じながら知ることができたとの感想をいただきました。

志摩市社協ボランティアセンターでは、平時からの備えとして毎年災害ボランティア養成講座や市民講座・設置運営訓練を開催しています。ぜひご参加ください!

# ボランティアスクール

## 「グリーフケア」講座

「グリーフケア」という言葉を耳にしたことはありますか。ご家族や親しい人を亡くされた方が、深い悲しみの最中にいるとき、悲しみや喪失感に押しつぶされそうな心と受入れなければならないという心の中で感情が揺れ動きます。それを「グリーフ」と呼び、このような状態のある人に寄り添い、時には必要な支援をしながら悲しみから立ち直るサポートをすることを「グリーフケア」と言います。

今年度はグリーフケアの基礎知識を学ぶ機会として、講師に居宅介護支援事業所さくら 岩城千春 様



をお招きして、ボランティアスクール「グリーフケア講座」を開催しました。

受講者自身がグリーフ経験のある方や親族や知人がグリーフ状態という方も見られ、関心の高さが伺えました。また寄り添うケアとして傾聴（共感）とロールプレイ、全人的苦痛や回復と成長、死生観など、実体験を交えたお話でとても学びのある時間となりました。

この学びを活かし、グリーフ状態の地域住民の支えになっていただければと思います。

## ボランティア 保険のご案内

安心・安全なボランティア活動をするため、ボランティア活動中のケガや賠償責任を補償するボランティア保険があります。加入手続きや保険の詳細については、ボランティアセンターまでお問い合わせください!